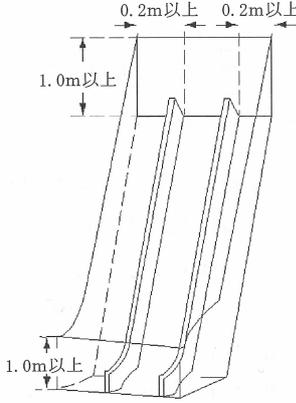
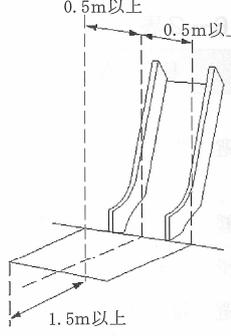
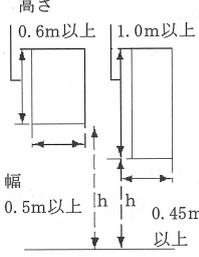
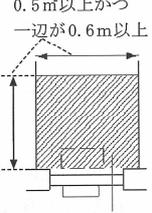
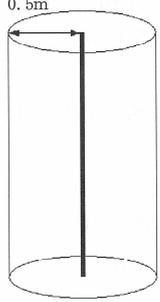
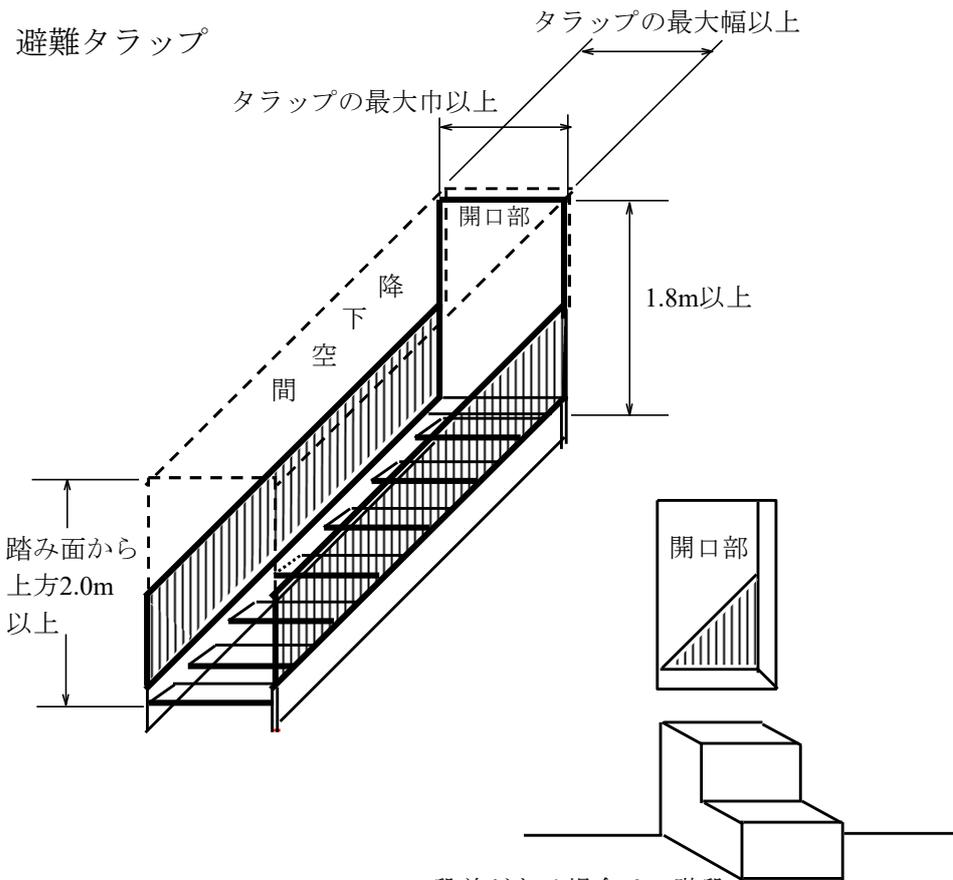
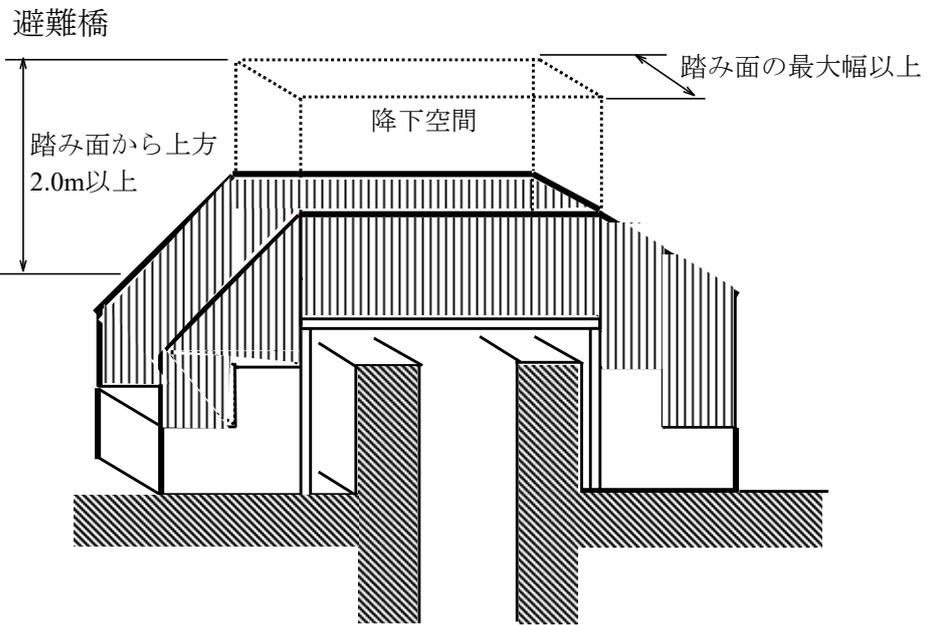


	設 置 位 置			
	取 付 部		降 下 空 間	避 難 空 地
	開口部の大きさ	操作面積		
滑 り 台	<p>高さ0.8m以上かつ幅は滑り台の滑り面の最大幅以上とする</p> <p>開口部の下端は床から1.2m以下とすること</p> <p>ただし、避難上支障ないように固定又は半固定のステップ等設けた場合はこの限りでない</p>	<p>滑り台の大きさ、形状に応じた操作に必要な面積</p>	 <p>滑り面から上方1m以上、両端から外方向に0.2m以上</p>	 <p>滑り台下部の先端から前方1.5m、滑り台の中心線から左右に0.5m以上</p>
避難空地は、滑り台の手すり部分の外側にそれぞれ0.2m以上確保することが望ましい ★				
滑 り 棒 ・ 避 難 ロ ー プ	 <p>高さ 0.6m以上 1.0m以上</p> <p>幅 0.5m以上</p> <p>h 0.45m以上</p> <p>h：壁面に設ける開口部の下端は床から1.2m以下とすること</p> <p>ただし、避難上支障ないように固定又は半固定のステップ等設けた場合はこの限りでない</p> <p>・床面に開口部を設ける場合は、直径0.5m以上の円が内接することができること</p>	 <p>0.5m以上かつ一辺が0.6m以上</p> <p>・器具の水平投影面積は操作面積から除く</p> <p>・避難器具の操作に支障ないこと</p>	 <p>0.5m</p> <p>滑り棒及び避難ロープを中心とした半径0.5m円柱形の範囲とする</p> <p>ただし、避難ロープで壁面に沿って降下する場合の壁面に対しては、この限りではない</p>	<p>避難上支障のない広さとする</p>
避 難 用 タ ラ ップ 橋	<p>高さ1.8m以上幅は当該器具の最大幅以上</p>	<p>当該器具を使用するのに必要な広さ</p>	<p>当該器具の踏面から高さ2m以上及び当該器具の最大幅以上</p>	<p>避難上支障のない広さとする</p>



段差がある場合は、階段
・スロープを設けること。

別添 避難器具専用室の構造等

